

曲亭馬琴著

傾城水滸

傳第十一編

歌川國安画
下帙卷之上

へ13
3087
34



原本水滸傳の鮮珍鮮寶雙越獄と一段を按ずる所の夜山中を珍と宝とを追落したる矢傷大虫の原是毛太公の兒子毛仲義が射てて

鮮家の兄弟小説示す所の利を分つて説くは毛老虎を推隠し謀く鮮珍鮮寶を陥れしは是非如腹織論者ともさそり人情の違ふは似りあはるゝ這編の杜官臈坂毛太夫の幸目將倉の親の時より恨ありその舊怨を復さんと更云と綴易う毎編の筆削るは具眼の人の知るべし又段の前後に見れる扈成亦宋廷玉の奸黨にあはれ就中亦宋廷玉の萬丈無當の武藝あり宋江これを降して躬方の資ありせざる作者の腹裡を推量する祝氏の梁山泊る豪傑と怨と結と久死のあり官軍の大將あり秦明呼処灼関勝徐寧張清の輩と同トからざるよあれば然るを明の鴈宕山樵が水滸後傳

又愈したる秀乾隆三十五年の重訂の本に扈成亦宋廷玉と再出してこれを梁山泊の殘黨と合體せし免宋廷玉の殊ある阮小七孫立の上席の坐るよりを作りたるものなり特小前傳の作者の用意の粗細をこのより況かの殘黨の又山寨の相取合ひの游賊を做さる如しの彼後傳の作者も亦宋江の百八人の初善中惡後忠の二を寺ありしを知ると宋の忠臣より後亦復徳の魔物とてつむ壁言はる琴を焼く鶴と喜ぶ類多べの略評をまづ坂の同好の友の示せし比混江龍李俊をも摠大将の做したるも快らぬ所あり

柴進のごとく相應のありしとひたりたればも予の猶もよありけり彼後傳の批評を又然るを別れ又後傳の一書を新作したる故とせよのる暇もければ因にふあよその腹稿とせしも鳥許の所為を有ける

文政十四年辛卯春正月吉日新板 曲亭馬琴識

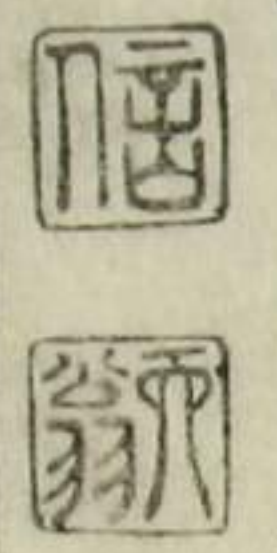




あかき
乃 曾
あひのき
うそがく
なりのきよ
おき
つぎ
さき

つぎのうそ
哨子照寫

まこのの
麻姑手
早



あまの
鹿
の
夢野
さる
茶餅
あめ
と
十萬里山狩倉

や
山又山幸賣





百枝子古雛

おののけ
 徳厚をば身を
 埋めおまぐ
 舌ふほりきる鳥の
 かけ涼

川社雛形

川社雛形



摩利支天
 紺太郎

味酒の之輪の枚の夢
 門の遠く神の賣と入
 あれせとのあらし
 合砥礪新玉

合砥礪新玉

合砥礪新玉



ナハツの五ノ一巻の十二冊









早蕨のついでに... 十一編



廿六日



廿七日

年代記児童講譯

初編 全編 二編 三編 四編 五編 六編 七編 八編 九編 十編 十一編 十二編 十三編 十四編 十五編 十六編 十七編 十八編 十九編 二十編

山東庵京山作

此神代史の神代物語より年代記の考ふるべきもの外にれたるを補いおのづから二部に分ちてこれをよめりて世に傳へしをよめりて児童のしるべきものなり

御祝儀日童講譯

全部 上冊

山東庵京山作

此神代史の正月の松さきりと始りて終るまで十二月の松さきりと終るまでを御祝儀日童の物語として繪りて児童のしるべきものなり

奉獨秘古

中本

全一冊

山櫻連々 逸軒 揺舟 合作

此の書は春をよめりて秋をよめりて冬をよめりて春をよめりての物語として繪りて児童のしるべきものなり



りての物語とて

十

戲場顯微鏡 上帙兩冊 彩色入 默老渙隱著 歌川國貞畫

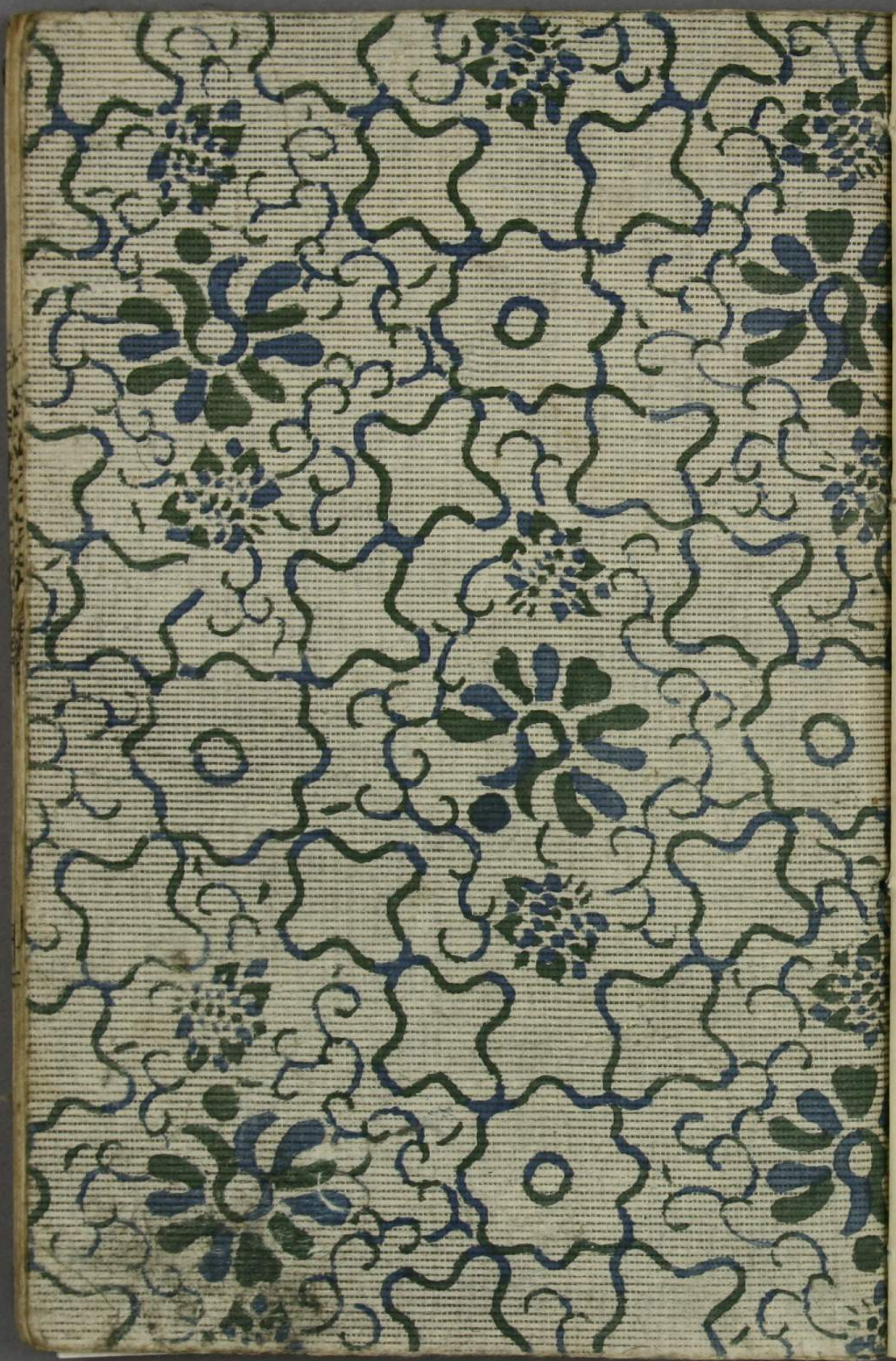
此鏡也戲場考古博覽の緒子著述する新劇の畫を以ての目録也其
監攝の三々を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其
の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其
の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其

本朝艶容女仙外史 初編 五冊 默々渙隱編案

此書は唐の逸史の華を以て著せし奇談也其の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其
の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其
の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其

顯微鏡 萬邦劇場談 上下 默老渙隱著

此鏡也戲場考古博覽の緒子著述する新劇の畫を以ての目録也其
の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其
の目録は之を以て省き觀るの規則を以て之を以て其の目録也其



馬琴著

每篇八卷上下二帙合本每帙二冊

此は是軍師吳竹が連環の計
池く張り與く奪ふ老氏の教誨

傾城水滸傳第十編之三

悍く奢りの悔く潰ゆ兵家の懺誠
聞道祝部母女が打出の杭

國安画

江戸通油町書林鶴屋喜右衛門板



Vertical text on the left margin, likely a commentary or publisher's note.

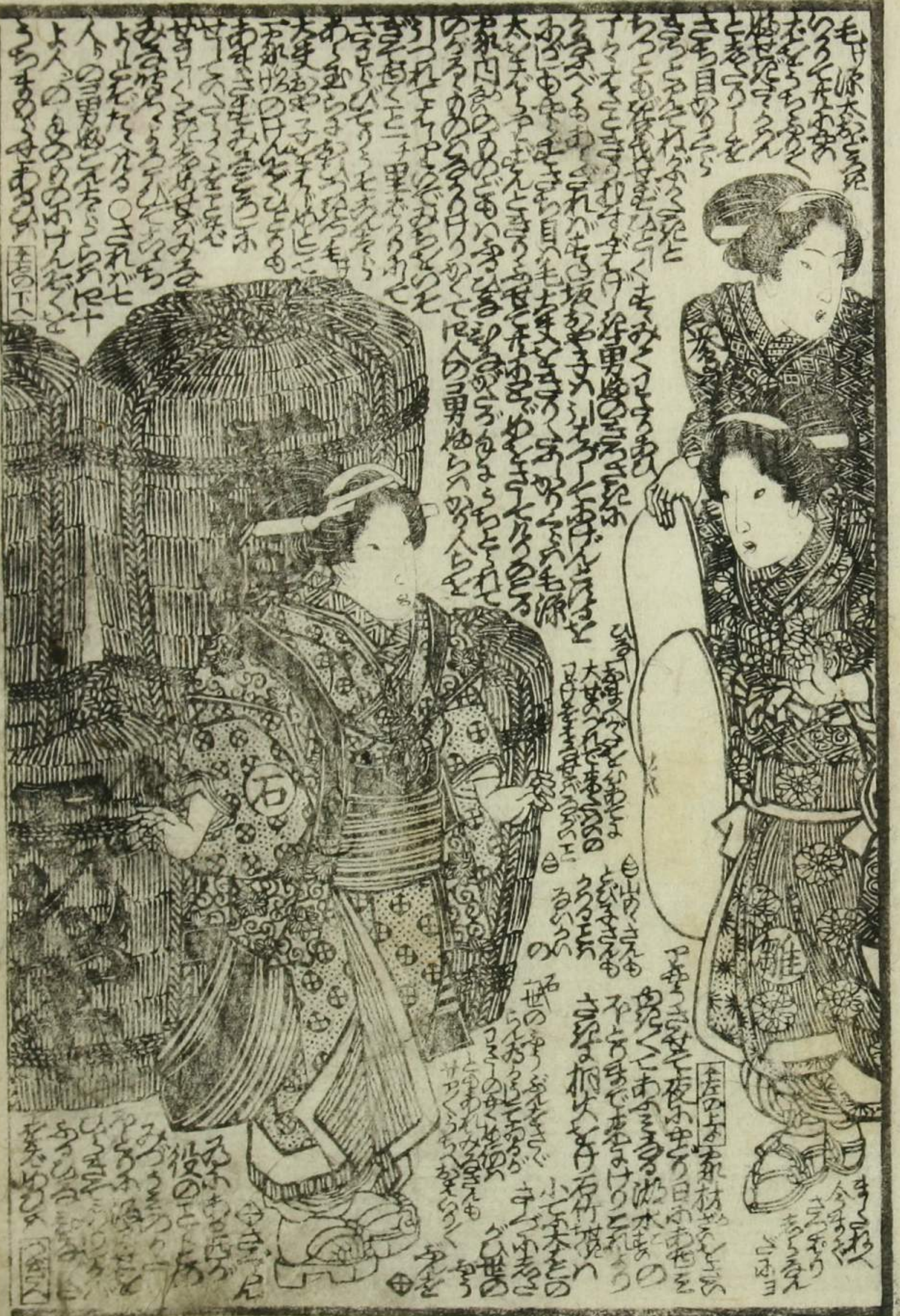
夫の事を知りて世に人々は驚かすものなるべし



あやふしき世に人々驚かすものなるべし
ついでと申すは
おのれは世に
ゆゑに世に
人の事を
さし見せし
なまへと申す
さすかゝる
と上意違れ口誼
すゝめはたつ
その義も
さるれば
さるれば
との事
あやふしき
おのれは
あやふし
男の事
おのれは
あやふし

あやふしき世に人々驚かすものなるべし

あやふしき世に人々驚かすものなるべし



あやふしき世に人々驚かすものなるべし
ついでと申すは
おのれは世に
ゆゑに世に
人の事を
さし見せし
なまへと申す
さすかゝる
と上意違れ口誼
すゝめはたつ
その義も
さるれば
さるれば
との事
あやふしき
おのれは
あやふし
男の事
おのれは
あやふし

あやふしき世に人々驚かすものなるべし
ついでと申すは
おのれは世に
ゆゑに世に
人の事を
さし見せし
なまへと申す
さすかゝる
と上意違れ口誼
すゝめはたつ
その義も
さるれば
さるれば
との事
あやふしき
おのれは
あやふし
男の事
おのれは
あやふし

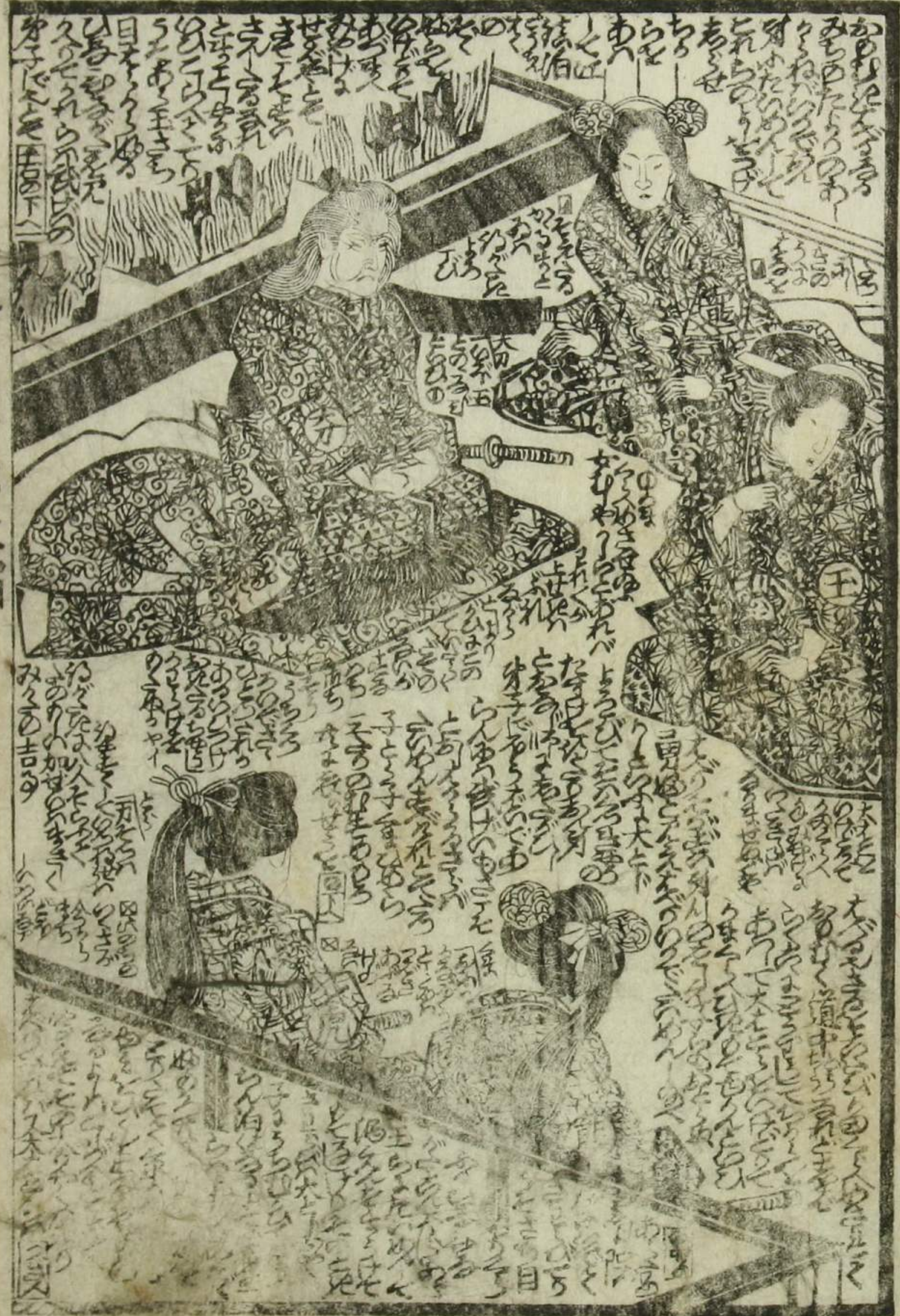
あやふしき世に人々驚かすものなるべし



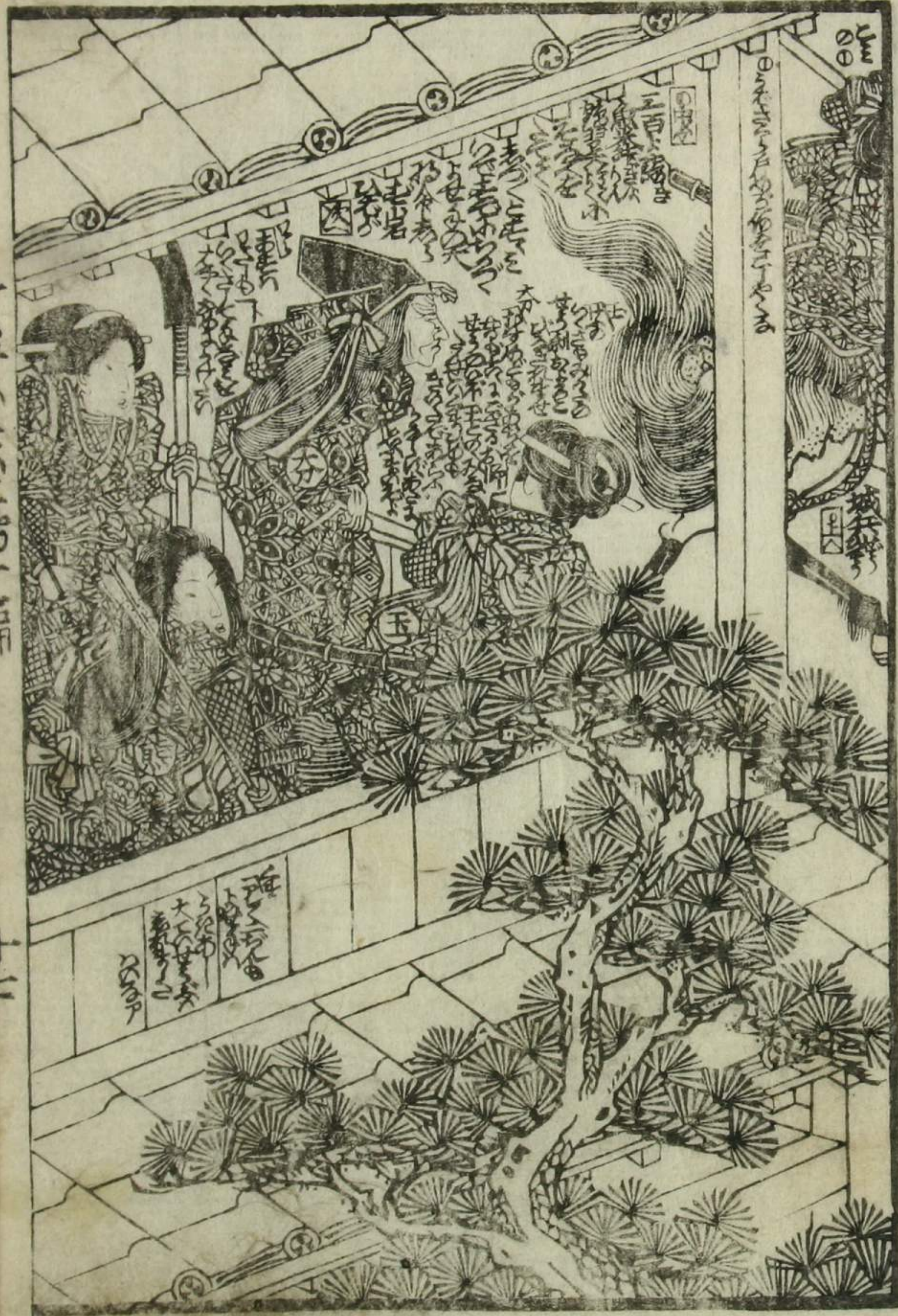
大正十一年四月十日

十一









大正十一年四月一日

十一



大正十一年四月一日

十一







馬琴今作



國安画

字のり

御免江戸曆開板所

毎年十月一日に江戸の賣物めしに
沙流文五 佐村てんり

載陽帖

南山禪師書東海道
翠翠章石摺木曾海道

道法早算用道中記一枚撮

新撰

日本名所之繪

唐紙摺一枚 蕙齋歛形紹真筆

新撰

女古状揃園生竹 大木 両品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料

柳亭種彦隨筆

古画八二冊

田喜菴輔

芳の心とらば

隨筆

玄同放言 初編二編 共三冊

右才三編三冊は美用の物なり動物の物の中は玄同編まで古き御物なり
初編二編は初編の物なり初編の物なり初編の物なり初編の物なり

三歌莊木皮輯

芳州集 全冊 開

蘭集 全冊

追系房集伊勢道... 刻

歡童 遊言画手本 一名鳥羽繪早

廣益 懷中早割大金 小本

新形染彩目

植花手引 前編出来

似顔早替古

後編 全二冊 五渡其國貞画

八文字自笑評

藝品定 役者評判記 全三冊

即考百籤

全一冊 後編

傾城水滸傳

初編十編上段... 曲亭馬琴作

合物端歌彈初

全冊 柳亭種茂校訂 笠亭仙果作

はろ 活乃名所

東海道... 隅田川西庄覽 北齋筆 全三冊

矢猛心兵交

全十冊 江戸名所東鑑 蕙齋筆 全三冊

春狂言墨鏡

全六冊 右四通共松上品... 全三冊

倭紫田舎源氏

初編三編... 柳亭種彦作

美艷仙女香翠翁

仙香坊... 歌川國貞画

黒油美女本白早翁

仙香坊... 團扇地紙問屋鶴屋喜齋門



書物錦繪 江通油町 團扇地紙問屋鶴屋喜齋門

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ